



アルチンボルドはだまし絵の技術をさらに発展させ、主題に関連した絵を上下に描いた。例えば「料理人」(P147)の絵は、上下を逆になると「肉の載った大皿」になる(1570年、ストックホルム国立美術館)。「庭師」(P227)の絵は、上下を逆になると「野菜が入ったボウル」になる(1590年、クレモナ市立アラ・ポンツォーネ博物館)。アルチンボルドはヒエロニムス・ボスや父親のほうのピーテル・ブリューゲルが描いた逆さまの世界(イル・モンド・アラ・ロヴェッショ)を思い起こさせる、視覚的なしゃれを描いた。



「自然観察」

1578年

水彩

ウィーン オーストリア国立図書館